



## アジア太平洋管理会計学会2016年度大会を終えて

上 埜 進 (Chair of the APMAA Board of Directors, 甲南大学名誉教授)

### はじめに

Asia-Pacific Management Accounting Association (APMAA) の2016年度大会(APMAA 2016)は、台湾の首都、台北に立地する国立台北大学が主催し、The Hotel Sherwood Taipeiをメイン会場に、10月4日(火曜日)から7日(金曜日)までの4日間、開催された。大会テーマを「管理会計の機会と新潮流(Opportunities and New Trends in Management Accounting)」と設定した本大会には、海外17ヶ国から80名余り、主催国である台湾から70名余りの参加があり、インドネシアのバリ島で開催されたAPMAA 2015とほぼ同規模であった。研究報告は、博士課程学生によるセッション(doctoral colloquium sessions)、基調講演(plenary session)、パネル・セッション(英語セッションと4大監査法人による中国語セッション)、投稿論文セッション(parallel sessions)が19という構成であった。投稿論文セッションには17か国から85本の投稿(インドネシアから31本 台湾から14本、日本から12本等)があり、そのうちの70本が採択された。

日本からの参加者は、辻 正雄(名古屋商科大学)、青木雅明(東北大学)、浅田孝幸(立命館大学)、細海昌一郎(首都大学東京)、木下徹広(龍谷大学)、林 尚毅(龍谷大学)、中島真澄(千葉商科大学)、森 勇治(静岡県立大学)、山本達司(大阪大学)、石椏義和(神戸外国語大学)、金宰煜(広島大学)、馮 玲(東京理科大学)、福田正彦(文教大学)、石田晴美(文教大学)、遠山道子(文教大学)といった先生方と筆者上埜 進(甲南大学)、また大学院生では富田耕平(大阪大学)、濱村純平(神戸大学)、高橋克幸(早稲田大学)、長澤昇平(首都大学東京)、村内一夫(龍谷大学)、銭 誠(Cheng Chian: 龍谷大学)、真木智也(東京理科大学)、坪内龍太(東京理科大学)の各氏であった。以下に大会の様子を日別に記したい。

### 大会1日目(10月4日)

大会1日目(10月4日)は、朝9時から正午まで、理事会(Board of Directors Meeting)が筆者を議長に開催され、大会実行委員長である国立台北大学(National Taipei University, NYPU)のChu, Hsuan-Lien先生によるAPMAA 2016の準備状況の報告で始まった。APMAA 2017については、開催校である上海交通大学(Shanghai Jiao Tong University)の大会実行委員長Hu, Yiming先生から詳細なプレゼンテーションがあり、それを全員で審議した。

午後から夕方までは、博士課程学生のセッションが、大会ホテルから近いNYPUダウンタウン・キャンパスの教室を用いて催された。プロポーザルを行った7人の博士課程学生は、それぞれのアドバイザーとなった先生方からきめ細かな指導を受けた。

夕刻6時から大会ホテルのボール・ルームでWelcome Receptionが催された。大会実行委員長のChu先生、NTPU副学長のLin, Dalton先生、そしてAPMAA Chairである筆者という順序で挨拶がなされ、APMAA Deputy ChairであるOmar, Normah先生が乾杯の音頭をとられた。レセプションの参加者は100名程で、お互いに再会を喜び、和やかな雰囲気の中にレセプションを9時に終えた。

## 大会2日目(10月5日)

大会2日目(10月5日)は、朝9時からOpening Ceremonyが開始され、NTPU副学長のLin先生、台湾会計学会会長のLi, Shu-Hsing先生から祝辞を頂いた。9時30分から基調講演があり、パソコン世界大手のAcerの共同創設者であるShih, Stan氏が、Wang Dao Management and Accounting(王導経営・会計)をテーマに組織統治のエッセンスを語られた。この思想は、覇道の対局にある王道による統治をめざし、その心遣いの細やかさが誉め称えられた中国の晋代の政治家の王導(Wang Dao, 276年-339年)にさかのぼるとされる。引き続き同じテーマでパネル・セッションが正午まで催された。

午後から夕方まで parallel sessions が行われ、日本からの報告は5本あった。ちなみに、「取締役会の構成は会計不正と関連しているか—日本からの実証結果—(Is the composition of the board of directors associated with accounting fraud? Evidence from Japan)」という論題で報告された中島真澄先生(千葉商科大学)は、会計不正が(1)2011年以降増加傾向にあり、(2)業績が良好でないほど、また企業規模が大きくなるほど、多発していると、そして(3)不正企業は社外取締役を増やす努力しているものの、社外取締役の独立性が低いと主張された。

また、東京理科大学理工学研究科の真木智也氏、馮玲先生、坪内龍太氏は共著論文「ISO26000の視点から企業の社会的責任と企業価値との関係(The Relationship between Corporate Social Responsibility and Corporate Value from the ISO26000 Perspective)」を報告された。濱村純平氏(神戸大学大学院経営学研究科博士課程)は、情報共有システムが企業の振替価格水準と経済的帰結に与える影響(Impact of information linkage system on firm's organization structure, transfer price, and profit)という論題で報告され、分権化組織において部門間の情報の非対称性を緩和する情報共有システムの存在が、企業にとって良いものであると考えられてきたが、必ずしも企業の利益を改善するものでなく、情報共有システムの採用は慎重に行う必要があると主張された。

石椏義和先生(神戸市外国語大学)は、椎葉淳先生(大阪大学)との共著論文「経営者の業績予想戦略と事業の複雑性(Manager's forecasting strategy and project complexity)」を報告された。同研究は、企業の事業の複雑性が時間とともに明らかになる時の、経営者が採用する業績予想戦略を考察している。

研究報告を終えた夕方6時から Gala Dinner が催された。冒頭に太鼓やドラゴン・ダンスが繰り出すなど、Taiwanese Folklore Show(台湾の伝承芸能出し物)があり、続いてChu先生、Shiue, Fujiing NTPU前学長、そして筆者という順序で歓迎の辞が述べられた。また、APMAA 2017大会実行委員長のHu先生が次回大会のプロモーションが行われた。余興に、寄付を頂いた4大監査法人のパートナーの先生方へのど自慢があり、賑やかで華やかな Gala Dinner を参加者150名が楽しんだ。



(写真はAPMAA 2016年度執行部役員とAPMAA 2016年度への寄付団体代表者たち)

### 3日目 (10月6日)

3日目はparallel sessionsに全日割かれ、Sherwood Taipeiで52の研究報告が行われ、日本からは7報告があった。

筆者は、Paul Scarbrough先生(Brock University, Canada)との共著論文「日本の管理会計 — 現行の方法と実務の概観— (Japanese management accounting: An overview of current methods and practices)」を報告した。この論文は、日本の製造大企業が実践してきた利益計画や予算管理、方針管理、バランスト・スコアカード、業績管理、JIT生産管理、品質管理、原価管理といった主要な管理会計実務を取り上げ、今日までの変遷とその動因を描いたものである。本研究は、海外研究者への発信を目的に執筆されており、日本の実務を研究の対象としてきた内外の先行研究の少なからずに見られるバイアスを是正したいとし、実務を可能な限り客観的に示すよう試みている。世界の管理会計が、近年、情報通信技術(information and communication technology, ICT)の急速な進展、ディスクロージャー実務の急激な変化等から影響を受けていることにも大きな関心を向け、そうした影響にも言及している。

また、(1)木下徹弘先生(龍谷大学)が「日本製造業企業の伝統的雇用慣行の制度化と脱制度化(Demise or reconfiguration of traditional HRM practices in Japanese manufactures in globalized economy?)」を林先生(龍谷大学)との共著論文として、(2)途上国の経済的ピラミッドの底辺に位置する人々の市場(Bottom of the Pyramid (BOP) Markets)をテーマにした

「BOP市場に対する伝統的な参入戦略の調整(Adjustment of traditional entry strategies for BOP markets)」を林 尚毅先生(龍谷大学)が木下先生、村内氏、銭氏(いずれも龍谷大学)との共著論文として、(3)福田正彦先生が「広告宣伝費のブランド価値に対する影響についての実証的研究 (Empirical study about advertising expenses ' effects on brand value)」を石田先生、遠山先生(いずれも文教大学)との共著論文として、そして、(4)高橋克幸氏(早稲田大学大学院生)が「地域別セグメント情報を用いたコストの下方硬直性の検証(The difference of cost behaviors between domestic segments and foreign country segments: Evidence from Japan)」を報告された。

### Cultural Visit

最終日の大会4日目(10月7日)は、Cultural Visitということで一日バス・ツアーが催された。台風が近づき、あいにくの雨であったが、大会ホテルSherwood Taipeiを9時に出発し、台湾北



部の港町基隆市の近郊、新北市瑞芳区に位置する山あいの町、九份（きゅうふん、Jiufen、ジョウフェン）に向かった。バスを降り、大雨の中、レトロ調の洒落た喫茶店や茶藝館（ちゃげいかん）、みやげ物屋などが建ちならぶ石階段を登り、予定されたレストラン、阿妹茶酒館（A-Mei Restaurant）で昼食をとった。風雨が強いので、「台湾のナイアガラ」と言われる台湾最大の滝、十分大瀑布(Shifen Waterfall)に行く午後からの予定を急遽変更し、台北市北部の士林区にある国立故宫博物院を訪れた。時刻6時にホテルに戻り解散した。



ちなみに、バス・ツアーには、海外からの参加者55名が参加した。

### おわりに

今回の大会では、国立台北大学の周到な準備に感心させられた。主催校は、APMAA 2016の研究会という側面を極めて重視されつつも、大会参加者を心温まるおもてなしで歓待された。また、世界の4大監査法人や台北証券取引所、台湾公認会計士協会、勅許管理会計士協会、台湾先物取引所、台北大学同窓会などから多額の寄付金を集められ、同大学の力量を見せつけられた。研究報告の充実ぶりや、こうしたことが、APMAA年次大会の充実ぶりを実感させた。



Belverd Needle先生 (Arthur Andersen LLC Alumni Distinguished Professor of Accounting, DePaul University) が自主参加されており、大会三日目のセッションのmoderatorを務められていたことも驚きであった。Needle先生は、1997年から 2002年の間、International Association for Accounting Education and Research (IAAER)会長職にあり、また、American Accounting Associationでは、2008年から2010年の間、教育担当副会長を務められた先生である。

日本からの参加者は、昨年のインドネシア大会では15名であったが、今回は26名に増えた。しかし、海外参加人数では例年1位にあった日本は、30数名参加したインドネシアの後塵を拝してしまった。APMAA 2017上海大会では、今回よりも多くの日本の先生方が報告者、司会、討議者として参加され、小さな世界というものの、日本がトップの座を確保できることを願う次第である (2016年12月10日記)。